

ナイチンゲールといえは、クリミア戦争で得た名声や近代看護学の基礎を築いた人として世に知られていますが、クリミア戦争から戻ってからの一〇年間に彼女が成し遂げた仕事については、一般に広く知られているとはいえません。世を忍んでいたかのように見える一八五〇年から一八六〇年代、ナイチンゲールが取り組んだ仕事の一つが、「看護覚え書」を世に著わすことでした。

クリミアの野戦病院で、負傷した兵士に献身的な看護を行なったナイチンゲールは、一方で、多くの若い兵士が目の前で死んでいくのをただ見送らざるをえませんでした。戦場から帰還した後、彼女は、当時脚光を浴びていた統計学の手法を用いてこの惨事の真の原因を探ろうとしました。その分析の結果が示したものは、皮肉にも、負傷した兵士を病院に送ることが、彼らを死に追いやるものであったという事実でした。それは「病院の衛生状態の悪さ」や「過密状態の病棟」が招いた疫病の蔓延であり、彼女の優れた看護の仕事をもってしても変えることはできないものでした。

一八六〇年に出版されたこの「看護覚え書」には、ナイチンゲールが、野戦病院で体験した過酷な状況、自身が病人として過酷に長い苦しみの日々が、色濃く反映されています。

考えを具体的な形にすること。明快で簡潔であること。

この本を世に出すために、ナイチンゲールは熟考し、版を重ね、人々に読んでもらうための労を惜しみませんでした。

今、改めてこのページを開けば、一五〇年の時を超えて看護や介護の精神の神髄に触れることができます。今もってその一言一句は、病人を前にしたときの私たちに、励ましとヒントを与えてくれます。病人を看るのは医療の専門家だけではない。病人の傍らにいる私たちひとりひとりでもある。そのことに気付かせてくれるのも「看護覚え書」です。

この映画は「看護覚え書」を今の時代にあらためて読み解くことの意味を皆さんと共有するために制作しました。制作にあたっては、日本国中から多くの浄財をお寄せいただきました。感謝に堪えません。おかげをもって、映画は、無事完成にまで漕ぎつけることができました。製作スタッフを代表いたしまして、ここから御礼を申し上げます。

二〇一一年二月 製作スタッフ代表 今泉文子

今までもそうしてきたように、  
いまも、そしてこれからも、  
看護に迷ったり、戸惑ったりしたら、  
「看護覚え書」に戻るだろう。  
この映画はそのことに、  
あらためて気付かせてくれた。

北海道医療大学大学院教授  
石垣靖子

撮影	-----	山本英男	録音	-----	河崎宏一
		八幡洋一	音楽	-----	二宮玲子
		関晴夫	タイトル	---	木下一志
		藤原千史	制作協力	---	土本亜理子
		前川達彦			渡辺雄志
照明	-----	江森清八			上野山雅也
		渡部耕次			坂東あずさ
			制作・演出	---	今泉文子

上映会について：全国各地で上映会を展開していきます。  
30人以上の会であれば、ハイビジョン  
の上映機材一式を持参でお伺いします。

上映費用： 東京から現地までの交通費（1名分）  
上映料3万円

お問合せ先：

U.N.Limited ユーエヌ・リミテッド  
〒251-0031  
神奈川県藤沢市鵜沼藤が谷3-11-30  
今泉文子 携帯電話 090-6567-1487  
e-mail : info@unpro.jp  
e-mail : un-pro@kb4.so-net.ne.jp  
URL : https://unpro.jp/